

家畜衛生週報

ANIMAL HYGIENE WEEKLY

No.3183 農林水産省消費・安全局 畜水産安全管理課、動物衛生課 2011.12. 19

・カナダにおける食肉処理施設の定期査察結果について	393
・家きん飼養農場における飼養衛生管理基準の遵守状況調査の結果について	394
・我が国で発生した馬伝染性貧血の対応と病性鑑定について	396
・家畜衛生レポート（岐阜県より）	398
・家畜衛生レポート（静岡県より）	399

☆カナダにおける食肉処理施設の定期査察結果について

（平成 23 年 12 月 9 日付プレスリリース）

厚生労働省と農林水産省は、カナダにおける牛肉の日本向け輸出プログラムの遵守状況を確認・検証するため、カナダの食肉処理施設の定期査察を実施しました。

月齢確認、特定危険部位（SRM ※ 1）除去等の記録状況等を確認したところ、カナダの日本向け輸出プログラム遵守に関して問題がないことを確認しました。

※ 1 SRM：Specified Risk Material

1. 概要

カナダにおける牛肉の日本向け輸出プログラムの遵守状況を確認・検証するため、厚生労働省と農林水産省の担当者を以下のとおりカナダに派遣しました。

期 間：平成 23 年 8 月 30 日～9 月 2 日

施設数：日本向け食肉処理施設 3 か所（アルバータ州）

実施者：厚生労働省、農林水産省の担当者

2. 結果概要

（1）対日輸出プログラム及び HACCP プランについて

1) 対日輸出プログラム

対日輸出プログラムについて、日本側による前回現地査察※以降の変更の有無及び変更内容を確認したところ、カナダ政府による確認、承認のもと施設のプロセスが変更される等、適切に対応されていました。

※ 平成 20 年 8 月、平成 21 年 10 月以降の状況について確認。新規認定施設については、認定日以降について確認。以下同じ。

2) HACCP プラン

HACCP（※ 2）プランについて、日本側による前回現地査察以降の変更の有無及び変更内容を確認したところ、変更は軽微なもののみであり、また適切に対応していました。

※ 2 HACCP：Hazard Analysis and Critical Control Point

（2）対日輸出された製品に関する生体受入、月齢確認、特定危険部位（SRM）除去、部分肉処理及び出荷等の記録

対日輸出認定施設について、前回現地査察以降に日本向けに出荷された製品の対日輸出プログラムへの適合状況について、生体受入、月齢確認、特定危険部位（SRM）除去、部分肉処理及び出荷等の記録を確認したところ、（4）に記載する事項を除き、指摘すべき事項は特段確

認されませんでした。

- (3) 対日輸出製品に関する現場作業（生体受入、月齢確認、と畜解体、部分肉処理、製品の保管・出荷等）

現場の作業状況については、施設内へ立ち入り、対日輸出処理の状況の確認、デモンストレーション及びインタビューにより以下の事項について調査したところ、指摘すべき事項は特段確認されませんでした。

1) 生体受入

- a. 生体の受入時には、肥育農場（フィードロット）名、品種、性別等の関係情報を確認していること。
- b. カナダ食品検査庁 (CFIA ※3) の検査官により、生体検査が適切に実施されていること。

※3 CFIA : Canadian Food Inspection Agency

2) 牛の月齢確認

カナダ牛個体識別システム機関 (CCIA ※4) のデータベースから取り出した生年月日に基づき、牛の月齢がと殺時点で20ヶ月齢以下であると確認されていること。

※4 CCIA : Canadian Cattle Identification Agency

3) と畜解体

- a. せき髄などのSRM除去、枝肉の高温・高圧洗浄などの適切な処理が行われていること。
- b. 日本向けの枝肉については、分別保管することにより、他の枝肉と区分されていること。

4) 部分肉処理

- a. 日本向け牛肉について、せき柱が適切に除去されていること。
- b. 日本向け部分肉処理について、作業開始時から行うことや、日本向け作業終了後、他の地域向けの作業開始までの間に時間的間隔を設けること（グレードチェンジ）により、日本向け以外の牛肉の混入が防止されていること。

5) 製品の保管・出荷

- a. 日本向け牛肉・内臓の箱詰後は、各企業が定めた製品管理番号により管理されていること。
- b. 冷蔵庫内において、日本向け以外の牛肉・内臓と適切に区分されていること。

- c. 出荷時に、日本向け牛肉・内臓に貼付されているラベルのスキャン等を行い、日本向け以外の牛肉・内臓の混入がないか確認していること。

- d. 対日輸出適格のものについての証明書が作成され、必要な検査等を受けて適切に証明書が発給されていること。

(4) 指摘事項

対日輸出条件の遵守について、指摘事項はありませんでした。

(注) 施設操業マニュアルにおいて、部分肉加工を取り扱う新規(2010年)認定1施設(日本への輸出実績無し)の納入元施設として、家畜衛生の観点から、カナダ政府が日本向けには認めないウルグアイ産牛肉を取り扱う施設が記載されていました。カナダ政府に確認したところ、当該納入元施設は、少なくとも2004年3月以降、一度もウルグアイ産牛肉を取り扱っていないことが確認されました。また、カナダ政府は、当該施設に対し、今後、納入元施設を変更する場合には十分に確認するよう指導しました。

☆家きん飼養農場における飼養衛生管理基準の遵守状況調査の結果について

(平成23年12月9日付プレスリリース)

農林水産省は、高病原性鳥インフルエンザ等の発生予防の観点から、100羽以上の家きんを飼養する農場等に対して、都道府県が立入調査を行った飼養衛生管理基準の遵守状況調査の結果をとりまとめました。

家きん飼養農場の71.2%で適切な飼養衛生管理が行われていることを確認し、残りの農場については、都道府県が改善指導を実施中です。

1. 経緯

高病原性鳥インフルエンザの発生予防の観点から、平成19年度以降、全国において、各都道府県の家畜保健衛生所が家きん飼養農場に立入調査を行い、飼養衛生管理基準の遵守状況の調査を実施しています。

今年度においては、4月の家畜伝染病予防法の一部改正に伴い、飼養衛生管理基準が改正され、新しい基準に基づき、立入調査が実施されました。

2. 調査の概要

- (1) 対象農場：家きんを100羽以上（だちょうにあっては10羽以上）を飼養する農場
- (2) 調査内容：改正後の飼養衛生管理基準に基づき、以下の内容が適切に実施されているかを確認
 - (ア) 人・車両等による病原体の侵入防止
 - (イ) 野鳥・野生動物からの病原体の侵入防止
 - (ウ) 飲用水・飼料の汚染による侵入防止
 - (エ) 家きん舎内外の整理・整頓・清掃
 - (オ) 家きんの健康管理及び取扱い
 - (カ) 家きん糞の処理
 - (キ) 従業員の知識の習得等

・これらの農場については、都道府県の家畜保健衛生所が指導を行い、施設や飼養衛生管理の改善を図っているところです。

(4) その他

・今回の調査結果は、飼養衛生管理基準が改正されたため、昨年までの数値とは連続しないものです。

※ 昨年度の調査における不備がある農場：1,165農場（12.4%）

・不備が確認された農場については、家畜保健衛生所による指導を継続して改善を図ることにより、引き続き、高病原性鳥インフルエンザの発生予防に努めます。

なお、調査結果についての詳細は別添のとおりです。

3. 調査結果

(1) 調査農場数及び調査終了数について

・11月11日現在、対象となる9,297農場のうち、9,109農場（98.0%）についての調査が終了しており、残りの188農場（2.0%）については、現在調査中（調査が終了していない農場については、12月上旬までに終了する見込みです）。

(2) 適切な飼養衛生管理が行われている農場について

対象農場のうち、調査時点で既に適切な飼養衛生管理が行われていた農場は5,507農場（59.2%）あり、調査時点で不備が認められましたが、家畜防疫員の指導後に改善が確認された農場が1,113農場（12.0%）ありました。これらを合計すると、適切な飼養衛生管理が行われている農場は6,620農場（71.2%）です。

(3) 飼養衛生管理に不備がある農場について

・対象農場のうち、防鳥ネット・金網、家きん舎内の消毒、入場車両・物品の消毒等の飼養衛生管理に不備がある農場が2,489農場（26.8%）ありました。

家きん飼養農場における飼養衛生管理基準の遵守状況調査（平成23年11月11日時点）

回答都道府県数：47/47

家きんの種類	飼養羽数	農場数	うち適切な飼養管理が行われていた農場	うち指導を行った農場			うち確認が終了していない農場
				改善済	改善指導中		
採卵鶏	>1000	3,204	1,890 59.0%	1,285 40.1%	375 11.7%	910 28.4%	29 0.9%
	100-1000	1,479	724 49.0%	736 49.8%	231 15.6%	505 34.1%	19 1.3%
肉用鶏	>1000	3,494	2,128 60.9%	1,235 35.3%	390 11.2%	845 24.2%	131 3.7%
	100-1000	203	132 65.0%	68 33.5%	26 12.8%	42 20.7%	3 1.5%
鶏(卵用種鶏)	>1000	151	126 83.4%	23 15.2%	5 3.3%	18 11.9%	2 1.3%
	100-1000	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
鶏(肉用種鶏)	>1000	473	331 70.0%	141 29.8%	40 8.5%	101 21.4%	1 0.2%
	100-1000	5	3 60.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%
あひる	>1000	46	37 80.4%	8 17.4%	3 6.5%	5 10.9%	1 2.2%
	100-1000	20	9 45.0%	11 55.0%	6 30.0%	5 25.0%	0 0.0%
うずら	>1000	49	45 91.8%	4 8.2%	1 2.0%	3 6.1%	0 0.0%
	100-1000	3	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
きじ	>1000	31	16 51.6%	15 48.4%	6 19.4%	9 29.0%	0 0.0%
	100-1000	55	25 45.5%	30 54.5%	10 18.2%	20 36.4%	0 0.0%
だちょう	>10	70	25 35.7%	43 61.4%	18 25.7%	25 35.7%	2 2.9%
ほろほろ鳥	>1000	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	100-1000	4	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
七面鳥	>1000	1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	100-1000	7	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計		9,297	5,507 59.2%	3,602 38.7%	1,113 12.0%	2,489 26.8%	188 2.0%

☆我が国で発生した馬伝染性貧血の対応と病性鑑定について

村上賢二¹⁾、小西美佐子¹⁾、亀山健一郎¹⁾、
芝原友幸²⁾、川島健司²⁾

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究所

1) ウイルス・疫学研究領域、2) 病態研究領域

本年3月、我が国で18年ぶりに馬伝染性貧血の発生が報告されました。本記事では、当該事例の病性鑑定結果とともに、併せて本事例の疫学調査から派生した関係馬群の対応等について御紹介します。

I 発生の経緯

平成23年3月、宮崎県が実施した定期検査において、JRA 宮崎育成牧場で飼養する馬1頭が、血清学的検査(寒天ゲル内沈降試験、以下「AGID」)により陽性疑いと判定された。当該検体について詳細な検査を実施するため、宮崎県から独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所(以下「動衛研」)に検体を送付し病性鑑定を依頼したところ、改めてAGIDで陽性と確認されたことから、3月16日、宮崎県は当該馬を馬伝染性貧血の患畜と決定した。

II 動衛研による病性鑑定

1 患畜の概要

患畜は2008年5月5日生まれで、毛色(栗色)が在来種である御崎馬の基準を満たさないため御崎馬から除外された後、宮崎県内の研究機関を経てJRA 宮崎育成牧場へ導入された。

2 鑑定材料

当該馬から3月11日に採取した血清およびEDTA血液と、病理解剖された患畜のホルマリン臓器(脾臓、肝臓、腎臓、骨髄)を検査材料とした。

3 検査方法

馬伝染性貧血ウイルス(以下「EIAV」)感染抗体検査、EIAV 遺伝子検査および病理組織学的検査を実施した。

(1) 抗体検査

EIAV 持続感染細胞培養液より作製したAGID用抗原(OIE マニュアルに準拠)および市販の診断用キットを用いて、AGIDにより血清中の抗体検出を行った。

(2) 遺伝子検査

EDTA血液に0.83%塩化アンモニウム溶液を加え赤血球を溶解し、PBSで洗浄した白血球から抽出したDNAを用いて、OIE マニュアルに掲載されているEIAVgag領域を標的としたPCR検査を行った。

(3) 病理組織学的検査

HE染色およびベルリン青染色(鉄染色)を実施した。

4 検査結果

(1) 市販キットおよび動衛研にて作製した抗原を用いたAGIDにおいて、明瞭な沈降線を形成した(図1)。



図1 寒天ゲル内沈降試験(AGID)
S: 被検血清、PS: 陽性指示血清、Ag: 抗原、PBS: 陰性対象
AGID用ゲル: 日本バイオテスト馬伝染性貧血用(試験2日目)

(2) 1st PCRでは遺伝子は増幅されなかったが、ネステッドPCRにより特異的な遺伝子断片が増幅され、増幅されたPCR産物のシーケンス解析を行い、系統樹を作成した(図2)。

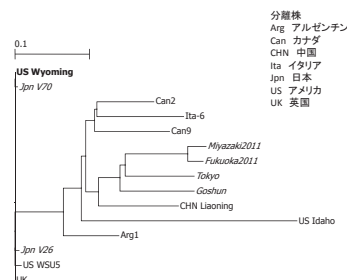


図2 馬伝染性貧血ウイルス(EIAV)gag遺伝子領域を用いた系統樹解析
黒太字は標準株、斜体文字は日本分離株。Jpn V70、V26はWyoming株の派生株とされる。

(3) 病理組織学的検査

1) 脾臓では多量のヘモジデリン沈着がみられ、ヘモジデリンを貪食したマクロファージも多数認められた(図3)。

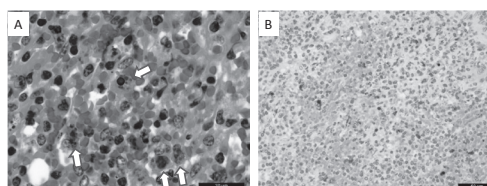


図3 病理組織学的検査
A: 脾臓組織中に出血とともに鉄色素を貪食した単球(胆鉄細胞)が認められる(矢印)(脾臓、HE染色、x600)。B: 脾臓組織中の鉄色素は青色を呈している(脾臓、ベルリン青染色(鉄染色)、x200)

2) 肝臓のグリソン鞘においてもヘモジデリン貪食マクロファージがみられたものの、その数は少なかった。

3) 腎臓、骨髄ではヘモジデリンの沈着は認められなかった。

5 考察

AGIDで明瞭な沈降線を形成し、PCRによる遺伝子検査で特異遺伝子を検出したこと、脾臓において馬伝染性貧血に特徴的なヘモジデリン沈着および貪食細胞（胆鉄細胞）の多数出現が認められたことから、当該馬はEIAVに感染しているものと考えられた。また、遺伝子解析の結果、我が国で1940年代（豪俊株）、1960年代（東京株）に分離されたウイルスに類縁であったことから、それらのウイルスに遺伝学的に近い株が御崎馬に保存されていたものと考えられた。

III 発生後の対応

1 JRA 宮崎育成牧場における対応

馬伝染性貧血の患者摘発を受けて、施設内の消毒・害虫駆除作業を行うとともに、患者が施設に在厩していた期間中（2010年3月26日～2011年3月11日）に施設に在厩していた馬および施設を一時利用した競走馬についても追跡調査を行い、3月28日までに全頭のAGID陰性を確認した。

2 福岡県における抗体陽性馬の摘発

観光牧場である油山牧場で飼養されていた馬4頭のうち、平成21年2月に宮崎県から導入した馬1頭が御崎馬由来の活用馬（毛色など御崎馬の基準を満たさず、御崎馬群から外に出された馬）であったことから、4月6日にAGIDを行い当該馬1頭の陽性を確認し、4月11日に殺処分を行った。病理組織学的には、宮崎県の検体と同様、脾臓において馬伝染性貧血に特徴的なヘモジデリン沈着および貪食細胞（胆鉄細胞）の多数出現が認められ、遺伝子解析の結果、宮崎県の検体に近いものであった（図2）。

なお、当該馬の飼養期間において、同居馬3頭以外との接触はなかった。

3 その他の御崎馬由来活用馬の検査結果

4県で飼養されていたその他の活用馬15頭のうち、飼養が確認できた13頭のAGIDを行い5月19日までに全頭の陰性を確認した。また、飼養が確認できない等、検査が実施できなかった2頭については、遡って確認できる時点の検査結果

としてAGID陰性を確認した。

4 御崎馬群の検査対応

平成23年5月に野生の御崎馬96頭の採血を行いAGIDを実施し、12頭の陽性を確認した。当該陽性馬12頭については、7月22日に全頭をとらした。

5 ウイルスの遺伝学的性状

2および4で確認された感染馬について、遺伝子学的検査を実施したところJRA 宮崎牧場で確認された感染馬から検出されたウイルス遺伝子に極めて近縁であった。

IV 感染実験

とらした御崎馬1頭より血液(100 mL)を採取し、赤血球溶血後末梢白血球をEIAV非感染馬に接種し経過観察を行ったところ、接種後13日目に約40度の発熱がみられ、2日間続いた後、回復した（図4）。また、発熱極期（接種13日）に採材した血液からはEIAV遺伝子は検出されなかったが、接種14日以降は遺伝子が検出された。感染抗体は接種27日より検出された（図5）。これらのことより、被検御崎馬には健康馬に感染可能なウイルスが存在していたことが示された。

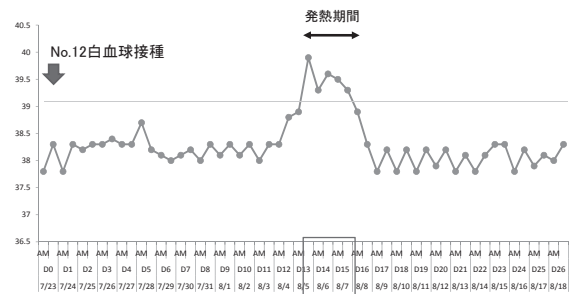


図4 御崎馬末梢白血球を接種した実験感染馬の体温の推移

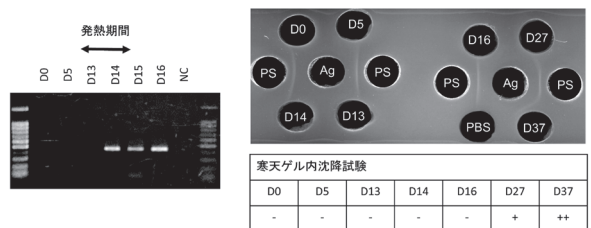


図5 実験感染馬白血球-DNAからのPCRによる馬伝染性貧血ウイルス遺伝子の検出および感染抗体の検出

V おわりに

今回の検出されたEIAVは、我が国で過去に分離されたウイルスと類縁であり、1940年から1960年代のウイルスが御崎馬群で保存されていた可能性が示唆された。5月に実施された当該馬群の検査で

確認された12頭の感染馬は、全てとう汰されたところであるが、本病から天然記念物である御崎馬群および国内の飼養馬を守るためには、感染のみられた御崎馬群について定期的な検査を行い、感染馬が摘発された場合にはとう汰するということを確実に実施することが重要である。また、家畜伝染病予防法に基づく検査の対象とならない野生馬については、伝染病の清浄化が不明であることから、当該馬群からの導入は極力避けるとともに、やむを得ず導入する場合には、導入前の検査の実施や一定期間の隔離を徹底する必要がある。

本稿をまとめるにあたり、宮崎県の関係各位ならびにJRA・美浦トレーニングセンター競走馬診療所および競走馬総合研究所栃木支所の関係各位に感謝する。

(動物衛生研究所ウイルス・疫学研究領域、病態研究領域)

☆家畜衛生レポート(岐阜県より)

岐阜県岐阜家畜保健衛生所

1. 管内の概況

当所管轄区域は、6市3町(岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、岐南町、笠松町、北方町)で、その面積は994.1㎡で南北に長く岐阜市を中心とした都市近郊、及び北部の中山間地域に分かれ総農家戸数は18,468戸で、そのうち畜産農家戸数は217戸です。

畜産部門産出額は、8,773百万円で農業産出額27,544百万円の内31.9%、県下畜産部門産出額43,698百万円の内20.1%を占めています。

近年管内の畜産概況は、都市化の進展等により戸数・頭羽数共に減少傾向にあり、家畜の飼養頭羽数は、乳用牛は1,235頭で羽島市、山県市、岐阜市の順となっており、肉用牛は2,474頭で岐阜市、本巣市、羽島市の順で、肥育牛が主体となっています。養豚は19,436頭で、山県市、岐阜市、本巣市が中心であり一貫経営が主体となっています。養鶏は797,418羽で山県市、本巣市、岐阜市、羽島市の順で採卵鶏が主体となっています。蜜蜂は2,137群で岐阜市、各務原市、本巣市が主体となっており県下の約38.4%が飼養されています。また、馬は笠松町を中心に、笠松競馬関係の競走馬等775頭が繋養されています。

2. 組織体制

現在の庁舎は昭和44年3月に建設されたもので、老朽化が著しく漏水など年々修繕に追われるような状況になっています。近い将来を見据えて家畜保健衛生所の体制について構想を固めるとともに整備に向けて各方面への働きかけを行っています。

職員は、所長以下獣医師14名、事務職員1名、日々雇用職員2名の17名であり、その構成は、所長、保健衛生課長、管理調整担当、防疫担当、保健衛生担当、そして病性鑑定担当となっています。

3. 業務内容

当所の業務で特徴的なものをご紹介します。

まず第一に鶺鴒の検診を行っていることです。岐阜県内には岐阜市と関市の長良川で鶺鴒が行われています。管内の長良川河畔には鶺鴒に用いる鶺鴒が約140羽、それぞれの鶺鴒匠宅で大切に飼育されており、鶺鴒のシーズン前とシーズン終了後(5月、10月)、および新鶺鴒の導入時(12月~1月)の年3回、定期健康診断を実施することにより鶺鴒の健康保持とともに、県都岐阜市の中心的な観光をバックアップしています。

平成24年度はぎふ清流国体が岐阜県で開催されます。岐阜へおいでの際は是非長良川の鶺鴒にお立ち寄りください。

第二に、岐阜は近代養蜂の発祥の地でもあります。岐阜市内の養蜂業者から全国各地に蜜蜂が供給されています。これに伴い、通年、腐蛆病検査を行っています。

余談になりますが、岐阜市内の長良川河畔には「蜜蜂の碑」がひっそりとたたずんでいます。昭和20年代後半から30年代にかけて腐蛆病流行のため多くの巣箱が長良川河畔で焼却処分されました。これらの蜂たちを供養するとともに、近代養蜂発祥の地と蜜蜂たちの勤勉さを讃えて、岐阜県養蜂組合連合会が中心となり昭和35年11月23日に建立したものです。以来50年以上にわたり毎年11月23日に養蜂業者、関係者らが多数参列し蜂供養が執り行われています。碑は高さ2m以上の立派なもので正面上部には蜜蜂のレリーフが施されています。鶺鴒へおいでの際はこちらにもお寄りください。

第三には「命の授業」への参加です。これは岐阜県獣医師会と連携して小中学校で畜産物ができるまでを授業形式で紹介しながら、子供たちに命の大切さを教えています。また、獣医師会が行う学校飼育動物の指導にも協力し、一緒に幼稚園や小学校を巡

回しています。

最後になりましたが、来年度はぎふ清流国体が岐阜県で開催され馬術競技が管内で行われます。家畜保健衛生所は馬事衛生担当ということで、現在、先催県である山口県の家畜保健衛生所をはじめとする関係者の方々の指導を受けながら本番に向けて準備を進めています。皆様のお越しをお待ちしています。



し、事業の推進を図っています。



(東部家畜保健衛生所)

2 本県の家畜保健衛生推進体制

本県の家畜保健衛生所は、3家畜保健衛生所・2分室体制となっています。東部・西部家畜保健衛生所は家畜衛生課本所と分室、中部家畜保健衛生所は家畜衛生課と家畜検査課（病性鑑定担当）の2課構成となっています。

なお、老朽化した東部・西部家畜保健衛生所については、バイオセキュリティの向上確保を目的に、平成23年12月から新庁舎建築に着手し、平成25年3月までに竣工する計画です。

☆家畜衛生レポート（静岡県より）

静岡県東部家畜保健衛生所

1 静岡県の畜産概要

本県の畜産は、優れた生産技術と自然条件や交通立地条件等を活かし、県民に新鮮で安全な畜産物を安定的に供給しています。平成21年の本県農業産出額2,086億円に占める畜産の産出額は375億円で、その割合は18.0%と本県農業の基幹部門を構成しています。

畜種別に県内の飼育分布を見ると、酪農は富士山西麓を中心に県東部地域、肉牛と採卵鶏は富士山西麓及び県西部地域、養豚は浜名湖を中心とする県西部地域で飼育されています。

本県は、肥料、飼料の国際価格の高騰、消費者の「食の安全・安心」への関心の高まり、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）やEPA（経済連携協定）への参加・締結に向けた国際化進展の動きのなか、「静岡県経済産業ビジョン（農業・農村編）」の目標達成のため、①畜産物のブランド化と地産地消・6次産業化の推進。②ビジネス経営体（企業の経営体）を核とした生産支援。③家畜防疫の推進と畜産物の安全・安心の確保。④自給飼料基盤に立脚した畜産経営の育成。⑤家畜改良増殖の推進。⑥家畜排せつ物の適正な管理・利用の促進を重点施策と

3 当所の概要

東部家畜保健衛生所は、1本所・1分室体制となっており、伊豆半島付根に位置する函南町に本所、富士山南部に位置する富士市に富士分室があります。管轄地域は富士川以東の11市9町と市町数が多くなっており、広範囲な地域を管轄しています。

管内の家畜飼養状況は、乳用牛が11,500頭で県内の72%を占め、肉用牛が10,200頭で40%を占めており、牛の飼育生産に特化した地域といえます。

職員数は、所長以下16名で、本所10名、分室6名の体制となっています。

4 当所の業務概要

(1) 家畜伝染病予防及びまん延防止

家畜伝染病の発生予防及びまん延防止のため、家畜衛生に関する技術支援を行うとともに農家巡回を実施し、「飼養衛生管理基準の遵守」や「異状時の早期通報」などの指導を行っています。

特に「特定家畜伝染病（口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ等）」について、本県は危機事案と位置付け、全庁的に防疫対策をとることとし、防疫演習等を通じて、危機管理体制の構築を図っています。



(口蹄疫防疫演習)

(2) 死亡牛の牛海綿状脳症検査

牛海綿状脳症特別措置法に基づく死亡牛検査は、県内東中部地域を対象に、富士宮市にある病性鑑定施設へ死亡牛が運ばれ、検体の採材を行っています。検体は中部家畜保健衛生所家畜検査課に持ち込み、陰性確認後、県外の化製場で処理されています。

(3) 天城哺乳場・放牧場における衛生検査

県内酪農家で生産された乳用子牛は、県内唯一の公共放牧場である天城哺乳場・放牧場に育成委託されています。当所ではピロプラズマ病等の衛生検査や受胎確認等の繁殖検査を実施しています。収容頭数は哺乳場 200 頭、放牧場 210 頭で、夏季(5～10月)に60haの草地で放牧が行われ、静岡県酪農を担う足腰の強い乳牛が育成されています。

(4) 畜産物の安全・安心確保対策

安全な畜産物の生産体制を確保するとともに、人獣共通感染症の発生を防止するため、薬剤耐性動態調査、抗生物質残留調査を実施し、抗生物質

の適正使用についての指導を実施しています。

本年7月、放射性セシウム汚染稲わら流通調査を実施し、管内肉牛農家で暫定許容値を超える県外産稲わらが給与されていたため、出荷自粛を要請しました。その後の牛肉検査で暫定規制値を下回っていることが確認され、出荷牛の放射線量の測定検査を条件に出荷自粛を解除しました。現在のところ、出荷牛は全て暫定規制値未満であり、安全な牛肉が供給されています。

このように最近の多様化する社会情勢や厳しい畜産情勢のなか、家畜保健衛生所に求められる業務も多岐にわたり高度化しています。家畜衛生業務はもとより、安全・安心な畜産物を提供するための対策や指導、さらに畜産物に対する県民の理解を深めるための情報発信など、職員が一丸となって生産者を支援していきたいと考えています。

最後になりましたが、本県の東西家保がこの度ようやく整備されます。この間、視察等でご協力いただきました全国の家畜保健衛生所の皆様方に、お礼申し上げますとともにご報告させていただきます。ありがとうございました。



(天城哺乳場・放牧場)

~~~~~  
通信  
~~~~~  
平成23年も、2週間を残すのみとなりました。畜水産安全管理課の主な出来事で、この1年間を振り返りたいと思います。

当課では、安全な畜水産物の安定供給のため、科学に基づき、飼料の規格基準の設定を進めています。本年は、ペットフード中のかび毒、重金属、有機塩素系化合物等の成分規格を追加設定しました。

海外で開発された動物用医薬品の承認を円滑に進め、生産者がより安全で有効な動物用医薬品を早く利用できるよう、日米欧の3極で承認審査資料の国際調和に取り組んでいます。近々、本年度の成果である残留試験法ガイドラインが公表される予定です。また、11月に東京で開催された国際会議では、日米欧以外の地域へのガイドラインの普及に取り組むことを決定しました。

今年は腸管出血性大腸菌による食中毒死亡事件が大きな社会問題となり、厚生労働省は生食用牛肉の規格基準を定めました。農林水産省では、生産段階における衛生管理の徹底により、各種の食中毒の発生を防止するため、牛肉及び鶏肉の生産衛生管理ハンドブックを公表しました。

東日本大震災に伴う原子力発電所事故により、放射性物質による食品の汚染防止が大きな課題となりました。食品の規制値を超えない畜産物を生産するための目安として飼料中の暫定許容値を設定するとともに、影響を受けた地域では放牧の制限等の適切な飼養管理をお願いしています。ホットスポットの存在など、放射性物質をめぐる引き続き厳しい状況にあります。来年も、安全な畜産物の安定供給に向けた対策を、皆さんと一緒に実行していきたいと存じます。ご協力をよろしくお願いします。

毎週月曜日発行

家畜衛生週報

編集・発行:農林水産省消費・安全局

畜水産安全管理課、動物衛生課

☎ 03(3502) 8111 内線 4581

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

家畜衛生週報 平成23年 第63巻 (No.3134 ~ 3183) 総目次

【法令・通知・告示・予算案】	
飼料の有害物質の指導基準の一部改正 について……………	3137 - 27
【会議】	
「農業資材審議会飼料分科会家畜栄養 部会」の開催及び一般傍聴について……………	3136 - 17
食料・農業・農村政策審議会家畜衛生 部会第37回家きん疾病小委員会の 開催について……………	3138 - 34
緊急都道府県農務部長会議の開催につ いて……………	3139 - 44
口蹄疫に関する全国一斉の防疫実態調 査及び机上防疫演習の実施について……………	3139 - 48
食料・農業・農村政策審議会 家畜衛生 部会第38回家きん疾病小委員会及び 高病原性鳥インフルエンザ疫学調査 チーム第1回検討会の合同開催につ いて……………	3141 - 59
「平成23年度 全国家畜衛生主任者会 議」の開催及び傍聴について……………	3148 - 113
農林水産省口蹄疫防疫対策本部の開催 について……………	3151 - 137
平成23年度 全国家畜衛生主任者会議 開催にあたって(動物衛生課長挨拶)……………	3151 - 141
「食料・農業・農村政策審議会 第11 回家畜衛生部会」の開催について……………	3153 - 153
「農業資材審議会 飼料分科会」の開催 及び一般傍聴について……………	3153 - 154
食料・農業・農村政策審議会 第12回 家畜衛生部会(現地視察)について……………	3156 - 177
「食料・農業・農村政策審議会 家畜 衛生部会 第17回 牛豚等疾病小委 員会」の開催について……………	3156 - 178
「食料・農業・農村政策審議会 第40 回家きん疾病小委員会」の開催につ いて……………	3157 - 185
第79回国際獣疫事務局(OIE)総会の 概要報告……………	3157 - 186
「食料・農業・農村政策審議会 第41 回家きん疾病小委員会」の開催に ついて……………	3158 - 193
「食料・農業・農村政策審議会 第13 回家畜衛生部会」(現地視察)につ いて……………	3160 - 209
「食料・農業・農村政策審議会 第15 回家畜衛生部会」の開催について……………	3162 - 225
「平成23年度 高病原性鳥インフルエ ンザ防疫対策強化推進会議」の開催 について……………	3174 - 321
高病原性鳥インフルエンザに関する 机上防疫演習の実施について……………	3176 - 337
「口蹄疫防疫に関する日中韓等東アジ ア地域シンポジウム」の開催につい て……………	3177 - 346
「平成23年度 第1回 国際獣疫事務 局(OIE)連絡協議会」の開催及び 一般傍聴について……………	3181 - 377
「口蹄疫防疫に関する日中韓等東アジ ア地域シンポジウム」概要について……………	3182 - 385
【家畜衛生概況】	
韓国での口蹄疫の拡大を受けた動物検 疫の強化について……………	3135 - 9
鳥根県安来市を中心に設定されている 移動制限の解除について……………	3135 - 10
鳥インフルエンザに関する情報……………	3135 - 10
韓国で分離された口蹄疫ウイルスにつ いて……………	3136 - 18
宮崎県における高病原性鳥インフルエ ンザの疑似患畜の確認について……………	3138 - 33
高病原性鳥インフルエンザ防疫対策本 部の開催について……………	3138 - 35
高病原性鳥インフルエンザ防疫対策本 部の開催について……………	3138 - 35
宮崎県における高病原性鳥インフルエ ンザの疑似患畜の確認(2例目)に ついて……………	3138 - 36
宮崎県において確認された高病原性鳥 インフルエンザのウイルス分析結果 について(第1例目)……………	3138 - 37
鹿児島県における高病原性鳥インフル エンザの疑似患畜の確認について……………	3139 - 41
宮崎県における1例目の高病原性鳥イ ンフルエンザ発生農場を中心とする 移動制限区域内の感染確認検査の結 果及び卵の出荷再開について……………	3139 - 42
愛知県における高病原性鳥インフルエ ンザの疑似患畜の確認について……………	3139 - 42
宮崎県における高病原性鳥インフルエ ンザの疑似事例について……………	3139 - 43

宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3139 - 44	宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(9例目)の確認について……………	3140 - 54
宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(5例目)の確認について……………	3139 - 45	宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(10例目)の確認について……………	3140 - 54
宮崎県における2例目の高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3139 - 45	宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3140 - 54
鹿児島県における高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3139 - 46	宮崎県における7例目の高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3140 - 55
宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3139 - 46	宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(11例目)の確認について……………	3140 - 55
宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(6例目)の確認について……………	3139 - 46	大分県における高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3141 - 57
愛知県における高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3139 - 47	米国産牛肉の混載事例について……………	3141 - 58
鹿児島県における高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3139 - 47	宮崎県における8例目の高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3141 - 58
宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3140 - 49	宮崎県における9,10,11例目の高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3141 - 60
宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(7例目)の確認について……………	3140 - 50	農林水産省口蹄疫防疫対策本部の開催について……………	3141 - 61
宮崎県における3,4例目の高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果及び卵の出荷再開について……………	3140 - 50	石川県における口蹄疫の疑似事例の検査結果について……………	3141 - 61
大分県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3140 - 51	愛知県の清浄性確認検査の結果について……………	3141 - 61
大分県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について……………	3140 - 51	鹿児島県の清浄性確認検査の結果について……………	3141 - 62
宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3140 - 52	宮崎県における1,2例目の清浄性確認検査の結果について……………	3141 - 62
宮崎県における3,4,5,6例目の高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3140 - 52	愛知県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3141 - 63
宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(8例目)の確認について……………	3140 - 53	宮崎県における5例目の清浄性確認検査の結果について……………	3141 - 63
我が国の口蹄疫清浄ステータスの回復について……………	3140 - 53	愛知県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜(2例目)の確認について……………	3141 - 63
宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3140 - 53	和歌山県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3141 - 64
		和歌山県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について……………	3142 - 65
		三重県における高病原性鳥インフルエンザの疑似事例について……………	3142 - 66
		三重県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について……………	3142 - 66

宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑い事例について……………	3142 - 67	奈良県における高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3144 - 84
宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（12例目）の確認について……………	3142 - 67	宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑い事例について……………	3144 - 84
大分県の清浄性確認検査の結果について……………	3142 - 67	宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（13例目）の確認について……………	3144 - 85
宮崎県における3.4.6例目の清浄性確認検査の結果について……………	3142 - 68	三重県における2例目の移動制限区域の縮小について……………	3144 - 86
愛知県における2例目の高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3142 - 68	宮崎県における13例目の高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3145 - 89
和歌山県における高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3142 - 69	三重県における高病原性鳥インフルエンザ（1例目）の清浄性確認検査の結果について……………	3145 - 90
三重県における高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3142 - 69	千葉県における高病原性鳥インフルエンザの疑い事例について……………	3145 - 90
宮崎県における7例目の清浄性確認検査の結果について……………	3142 - 69	千葉県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について……………	3145 - 91
宮崎県における12例目の高病原性鳥インフルエンザ発生農場を中心とする移動制限区域内の感染確認検査の結果等について……………	3142 - 70	千葉県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（2例目）の確認について……………	3146 - 97
宮崎県における8例目の清浄性確認検査の結果について……………	3142 - 70	奈良県における清浄性確認検査の結果について……………	3146 - 98
宮崎県における11例目の清浄性確認検査の結果について……………	3142 - 70	宮崎県における13例目の清浄性確認検査の結果について……………	3146 - 99
宮崎県における9.10例目の清浄性確認検査の結果について……………	3143 - 73	米国ノースカロライナ州からの家きん及び家きん肉等の輸入停止措置について……………	3146 - 99
三重県における高病原性鳥インフルエンザの疑い事例について……………	3143 - 74	米国ミズーリ州からの家きん及び家きん肉等の輸入停止措置について……………	3148 - 114
三重県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（2例目）の確認について……………	3143 - 74	千葉県における清浄性確認検査の結果について……………	3148 - 115
奈良県における高病原性鳥インフルエンザの疑い事例について……………	3143 - 74	米国ネブラスカ州からの家きん及び家きん肉等の輸入停止措置について……………	3149 - 121
奈良県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について……………	3143 - 75	宮崎県における口蹄疫の疑い事例について……………	3151 - 138
愛知県における2例目の清浄性確認検査の結果について……………	3144 - 81	タイ王国向け牛肉の輸出再開について……………	3151 - 141
宮崎県における12例目の清浄性確認検査の結果について……………	3144 - 82	英国ノッティンガムシャー州及びノースヨークシャー州からの家きんの輸入停止措置の解除について……………	3152 - 145
和歌山県の清浄性確認検査の結果について……………	3144 - 82	カナダ マニトバ州からの家きん及び家きん肉等の輸入停止措置の解除について……………	3154 - 161
アワビにおけるキセノハリオチス感染症の確認について……………	3144 - 83	米国ミネソタ州からの家きん及び家きん肉等の輸入停止措置について……………	3155 - 169
		米国ミズーリ州からの家きん及び家きん肉等の輸入停止措置の解除について……………	3168 - 273

「平成 22 年度高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査の中間取りまとめ」の公表について……………	3168 - 274	家畜衛生関連情報 (平成 22 年分) ……	3179 - 361
「平成 22 年度高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査の中間取りまとめ」の概要……………	3168 - 275	全国家畜保健衛生所、病性鑑定施設及び畜産主務課一覧……………	3182 - 387
「高病原性鳥インフルエンザ防疫対策本部」の開催について……………	3172 - 305		
米国産牛肉の混載事例について……………	3177 - 345	【牛トレーサビリティ】	
米国ネブラスカ州からの家きん及び家きん肉等の輸入停止措置の解除について……………	3177 - 346	有限会社岡崎商店が販売した牛肉への個体識別番号の不適正表示に対する措置について……………	3134 - 7
米国における食肉処理施設の定期査察の実施について……………	3178 - 353	株式会社やまむらやが販売した牛肉への個体識別番号の不適正表示等に対する措置について……………	3138 - 37
米国ミネソタ州からの家きん及び家きん肉等の輸入停止措置の解除について……………	3180 - 369	株式会社ユーピーマネジメントが提供した特定料理への個体識別番号の不適正表示等に対する措置について……………	3138 - 38
米国オハイオ州からの家きん及び家きん肉等の輸入停止措置について……………	3180 - 370	福良 (ふくよし) 有限会社が販売した国産牛肉への個体識別番号の不適正表示に対する措置について……………	3151 - 139
家畜防疫員の確保状況 (家畜伝染病予防法第 12 条の 7 に基づく公表) ……	3181 - 380		
		【獣医事・小動物獣医療】	
【家畜伝染病発生月報】		獣医師の皆様へ (獣医師法第 22 条の規定に基づく届出について) ……	3135 - 16
(平成 22 年 3 月) ……	3156 - 179	獣医師の皆様へ (獣医師法第 22 条の規定に基づく届出について) ……	3137 - 32
(平成 22 年 4 月) ……	3158 - 195	第 62 回 獣医師国家試験の結果について……………	3146 - 100
(平成 22 年 5 月) ……	3159 - 203	獣医師法第 8 条第 2 項の規定に基づく「獣医師の業務停止処分」について……………	3152 - 146
(平成 22 年 6 月) ……	3161 - 219	外国の獣医学校を卒業した者等の獣医師国家試験の受験資格の認定に係る申請手続きについて……………	3153 - 156
(平成 22 年 7 月) ……	3163 - 234	飼育動物診療施設におけるエックス線装置の届出状況 (平成 22 年 12 月 31 日現在) ……	3154 - 162
(平成 22 年 8 月) ……	3165 - 251	獣医師法第 22 条の届出状況 (平成 22 年 12 月 31 日現在) ……	3163 - 233
(平成 22 年 9 月) ……	3171 - 299	平成 22 年度獣医関係大学卒業者の就職状況調査……………	3165 - 249
(平成 22 年 10 月) ……	3173 - 315	獣医師法第 8 条 2 項の規定に基づく「獣医師の業務停止処分」について……………	3166 - 261
(平成 22 年 11 月) ……	3176 - 339	獣医療法第 15 条に基づく (株) 日本政策金融公庫からの資金送付……………	3178 - 353
(平成 22 年 12 月) ……	3180 - 371	外国の獣医学校を卒業した者等の獣医師国家試験の受験資格の認定に係る申請手続きについて……………	3178 - 354
		【動物薬事】	
【届出伝染病発生月報】		動物用医薬品再審査結果の訂正について……………	3137 - 30
(平成 22 年 3 月) ……	3156 - 180	動物用医薬品再審査結果……………	3142 - 71
(平成 22 年 4 月) ……	3158 - 196	産業動物における動物用医薬品副作用症例報告 (薬事法第 77 条の 4 の 2) ……	3142 - 71
(平成 22 年 5 月) ……	3159 - 204	動物用医薬品の再評価のためのスクリーニング対象成分について……………	3149 - 122
(平成 22 年 6 月) ……	3161 - 220		
(平成 22 年 7 月) ……	3163 - 235		
(平成 22 年 8 月) ……	3165 - 252		
(平成 22 年 9 月) ……	3171 - 300		
(平成 22 年 10 月) ……	3173 - 316		
(平成 22 年 11 月) ……	3176 - 340		
(平成 22 年 12 月) ……	3180 - 372		
【家畜衛生情報】			
平成 22 年家畜衛生関連情報			
第 II 四半期 (4 ~ 6 月分) ……	3164 - 241		
平成 22 年度家畜衛生関連情報			
第 III 四半期 (7 ~ 9 月分) ……	3170 - 289		
平成 22 年度家畜衛生関連情報			
第 IV 四半期 (10 ~ 12 月分) ……	3174 - 322		

動物医薬品再審査結果について……………	3155 - 175	第 67 回九州・山口病性鑑定協議会の開 催報告……………	3160 - 210
動物医薬品再審査結果について……………	3160 - 210	第 51 回全国家畜保健衛生業績発表会演 題(北海道)……………	3160 - 212
産業動物における動物用医薬品副作用 症例報告(薬事法第 77 条の 4 の 2) ……	3162 - 226	No.3160 記事および目次の訂正について ……	3161 - 224
No.3162 記事の訂正について……………	3167 - 269	第 51 回全国家畜保健衛生業績発表会演 題(徳島県)……………	3161 - 222
動物医薬品再審査結果について……………	3170 - 295	カナダにおける食肉処理施設の定期査 察について……………	3168 - 274
産業動物における動物用医薬品副作用 症例報告(薬事法第 77 条の 4 の 2) ……	3172 - 309	平成 22 年度家畜由来細菌の抗菌性物質 感受性実態調査結果……………	3169 - 281
東京アグリメント-VICH は日米欧を 超えて世界へ発信……………	3181 - 381	第 51 回全国家畜保健衛生業績発表会演 題(大阪府)……………	3169 - 284
動物医薬品再審査結果について……………	3181 - 379	第 52 回全国家畜保健衛生業績発表会の 概要……………	3171 - 297
【飼料】		No.3171 記事の訂正について……………	3173 - 319
ドイツにおける飼料のダイオキシン汚 染に関する対応について(注意喚起) ……	3136 - 20	第 51 回全国家畜保健衛生業績発表会演 題(宮城県)……………	3178 - 356
飼料安全法に基づく収去飼料等の試験 結果の公表について……………	3137 - 30	カナダにおける食肉処理施設の定期査察 結果について……………	3183 - 393
飼料安全法に基づく収去飼料等の試験 結果の公表について……………	3143 - 75	家きん飼養農場における飼養衛生管理 基準の遵守状況調査の結果について……………	3183 - 394
飼料安全法に基づく収去飼料等の試験 結果の公表について……………	3147 - 106	我が国で発生した馬伝染性貧血の対応 と病性鑑定について……………	3183 - 396
飼料安全法に基づく収去飼料等の試験 結果の公表について……………	3159 - 201	【講習会・研究会・検討会】	
【ペットフード】		「高病原性鳥インフルエンザ疫学調査 チーム第 3 回検討会」の開催につ いて……………	3155 - 170
ペットフード安全法に基づく収去飼料 等の試験結果の公表について(平成 22 年 1～3 月)……………	3152 - 147	「犬等の検疫制度検討会」の開催につ いて……………	3180 - 369
No.3152 記事の訂正について……………	3154 - 168	【意見・情報の募集】	
ペットフード安全法に基づく収去飼料 等の試験結果の公表について(平成 22 年 4～6 月)……………	3154 - 163	「組み換え DNA 技術によって得られ た生物を含む飼料の安全性の確保に 支障がないものとして農林水産大臣 が定める基準」に関するご意見・情 報の募集(パブリックコメント)……………	3161 - 217
ペットフード安全法に基づく収去飼料 等の試験結果の公表について(平成 22 年 7～9 月)……………	3155 - 171	【家畜衛生レポート】	
ペットフード安全法に基づく収去飼料 等の試験結果の公表について(平成 22 年 7～9 月)……………	3157 - 187	(長野県より)……………	3136 - 21
ペットフード安全法に基づく収去飼料 等の試験結果の公表について……………	3173 - 313	(愛知県より)……………	3143 - 77
【調査・研究成績】		(岐阜県より)……………	3143 - 79
第 51 回全国家畜保健衛生業績発表会演 題(福井県)……………	3135 - 12	(三重県より)……………	3144 - 86
第 51 回全国家畜保健衛生業績発表会演 題(岐阜県)……………	3149 - 124	(滋賀県より)……………	3145 - 95
米国における食肉処理施設の定期査察 結果について……………	3150 - 129	(京都府より)……………	3146 - 102
		(大阪府より)……………	3147 - 108
		(奈良県より)……………	3147 - 110
		(島根県より)……………	3148 - 115
		(和歌山県より)……………	3149 - 123
		(福岡県より)……………	3150 - 130
		(兵庫県より)……………	3150 - 132

(鳥取県より)	3151 - 143	配合飼料中の放射性セシウムの暫定許 容値の設定及び確認について.....	3166 - 260
(岡山県より)	3152 - 151	放射性セシウムを含む肥料・土壌改良 資材・培土及び飼料の暫定許容値の 設定に関する関係者向けリーフレッ トのホームページへの掲載について.....	3166 - 261
(山口県より)	3154 - 166	東日本大震災について～家畜用飼料の 暫定許容値設定に関する Q&A ～.....	3167 - 265
(愛媛県より)	3155 - 175	東日本大震災について～飼料の暫定許 容値設定に関する Q&A について (養魚用飼料の Q&A の作成及び家 畜用飼料の Q&A の更新) ～.....	3175 - 329
(香川県より)	3157 - 190		
(高知県より)	3157 - 191		
(埼玉県より)	3158 - 199		
(静岡県より)	3159 - 207		
(佐賀県より)	3162 - 229		
(福井県より)	3162 - 231		
(広島県より)	3163 - 239		
(大分県より)	3164 - 247		
(山梨県より)	3165 - 255		
(北海道より)	3166 - 261		
(熊本県より)	3167 - 271		
(茨城県より)	3170 - 295		
(群馬県より)	3171 - 303		
(宮崎県より)	3172 - 305		
(三重県より)	3175 - 334		
(鹿児島県より)	3175 - 335		
(沖縄県より)	3176 - 343		
(東京都より)	3177 - 348		
(栃木県より)	3179 - 365		
(千葉県より)	3180 - 375		
(神奈川県より)	3181 - 382		
(岐阜県より)	3183 - 398		
(静岡県より)	3183 - 399		
【各班だより】			
(国際獣疫班より)	3136 - 23		
(生産安全班より)	3137 - 31		
(薬事審査管理班より)	3144 - 88		
(小動物獣医療担当より)	3146 - 104		
(薬事安全企画班より)	3148 - 116		
(保健衛生班より)	3166 - 264		
(査察調整班より)	3169 - 288		
(獣医事班、小動物医療担当より)	3173 - 319		
(薬事監視指導班より)	3176 - 338		
(愛がん動物用飼料対策班より)	3177 - 351		
(検疫業務班より)	3179 - 367		
(検疫企画班より)	3182 - 391		
【東日本大震災に係る通知等】			
東北地方太平洋沖地震発生に伴う家畜 の飼養管理及び施設園芸の停電対応 等について.....	3145 - 92		
畜産農家の皆様へ.....	3147 - 105		
原子力発電所事故を踏まえた家畜の飼 養衛生管理について.....	3147 - 106		
放射性セシウムを含む肥料・土壌改良 資材・培土及び飼料の暫定許容値の 設定について.....	3166 - 257		
		年頭にあたって(畜水産安全管理課長 挨拶)	3134 - 1
		年頭にあたって(動物衛生課長挨拶)	3134 - 4
		平成 22 年度鶏病研究会九州地区鶏技術 研修会開催案内.....	3134 - 8
		人事異動(平成 22 年 12 月 8 日～平成 23 年 1 月 1 日付)	3135 - 16
		人事異動(平成 23 年 1 月 11 日付)	3136 - 24
		人事異動(平成 23 年 1 月 16 日付)	3137 - 32
		平成 22 年度鶏病研究会関東・甲信越地 区鶏病技術研究会開催案内.....	3140 - 56
		人事異動(平成 23 年 2 月 1 日付)	3140 - 56
		人事異動(平成 23 年 3 月 16 日付)	3147 - 112
		人事異動(平成 23 年 3 月 31 日及び 4 月 1 日付)	3148 - 117
		第 78 回日本豚病研究会研究集会のお知らせ	3150 - 134
		平成 23 年度全国家畜衛生主任者会議 畜水産安全管理課長挨拶.....	3153 - 157
		第 261 回鶏病事例検討会開催案内.....	3155 - 170
		第 29 回家畜衛生講習会並びに研究協議 会の案内.....	3156 - 183
		「第 74 回 日本家畜衛生学会」開催の ご案内.....	3158 - 194
		人事異動.....	3164 - 248
		第 262 回 鶏病事例検討会開催案内.....	3167 - 270
		「第 79 回日本豚病研究会・平成 23 年 度日本豚病臨床研究会・平成 23 年度 日本養豚開業獣医師協会 合同研究 集会」のお知らせ.....	3168 - 277
		人事異動.....	3168 - 280
		鹿野農林水産大臣の「日本獣医生命科 学大学創立 130 周年記念式典」への 出席について.....	3171 - 297
		人事異動.....	3174 - 327
		「第 75 回研究発表会」と「家畜衛生 フォーラム 2011」開催のお知らせ	3177 - 348
		第 263 回鶏病事例検討会開催案内.....	3178 - 360